

グローバルセミナーで 女性の権利問題を問い直す

本連載では、国際協力に取り組む全国の高校生の活動を紹介する。
国際協力の未来を担うかもしれない高校生たち取材した。

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校

1916年創立、110周年を迎える。
普通科・商業科・人間文化科の
3学科が設置

半年間の国連グローバルセ
ミナーに参加し、全世界の高
校生とSDGsについて学ぶ

全世界の女性たちのエン
パワーメントのため自力
で非営利団体を設立

全世界の高校生と研究

今年110周年を迎えた茨城県立竜ヶ崎第二高等学校は、2万人を超える卒業生を輩出する。普通科・商業科・人間文化科の3学科が設置され、商業科では、地域の企業や大学、行政などと連携した地域活性化の取り組みに積極的だ。

商業科3年生、ドニーシャ・セルバさんは、商業科での学びを国際協力につなげることを目指し、さまざまな活動を行っている。そのうちのひとつが、国連グローバルセミナーへの参加だ。同セミナーは2024年10月から2025年3月にかけて、国連大学の主催で実施された。全世界の高校生たちが参加し、半年間かけて持続可能な開発目標（SDGs）に関する講義やグループディスカッション、個人研究などを行う。

ドニーシャさんは、中学3年生の時に家族と共にスリランカから日本に移住。2022年、スリランカ財政危機の際、国連からさまざまな支援を受けたことを知って国連の活動に興味を持ち、セミナーへの参加

を決めた。

ドニーシャさんが個人研究に選んだトピックは「女性の権利」。2022年にイランの反政府運動で女性が死亡した事件を取り上げた。「自分の体は自分のもの。信仰も個人の自由だけれど、宗教を使って法律を作る、その法律を使って女性の身体を自由を奪うことが、本当に正しいのか問わなければいけない」と問題意識を強く主張。「変化は自分から始まる」というメッセージを伝えた。

「行動」の大切さを学ぶ

半年間のセミナーを通してさまざまなトピックについて議論、プレゼンを重ねて得た、一番大きな学びは、「教育や知識を得ることと、実際に行動に移すことの間には大きな違いがあること」「誰かが始めるのを待つのではなく、目標を高く設定する。そうすれば、たとえ頂点に届かなくても、目標を低く立てたり、失敗を恐れて何もしないより、ずっと遠くまで進めるはず」と語る。

ドニーシャさんは、2024年11月に非営利団体「Women Up」を立



国連大学本部（東京）にて、半年間の研究成果の発表に参加したドニーシャ・セルバさん

ち上げた。ビジネスと女性のエンパワーメントを掛け合わせ、男女平等問題に対する活動をしたり、世界で活躍する女性を支援するコミュニティづくりをしたりすることが目的だ。今年2月には、コンテンツライティング、ソーシャルメディアマーケティング、研究の3種類のインターンシッププログラムを始め、現在は10カ国以上から、60人ほどのメンバーが集まっている。

自分の関心に向かって行動を続けるドニーシャさん。現在は人工知能（AI）を用いたシステム開発に興味があり、若い起業家やスタートアップ企業を支援するため、アクセスしやすく役立つツールを提供することが目標だ。

Women Upの活動では、国や地域ごとの支部を立ち上げ、さらに活動の輪を広げていくことを目指している。

熱量たっぷりに語ってくれた面持ち、なんとも頼もしいものだった。今後さらに広い世界に羽ばたいていくドニーシャさんがどのような活躍をしていくのか、期待が膨らむ。



Women Up
ホームページ



Women Up
Instagram
アカウント